

(19) 日本特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-64153
(P2001-64153A)

(43) 公開日 平成13年3月13日 (2001.3.13)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	データベース [*] (参考)
A 6 1 K	7/48	A 6 1 K	7/48
	7/00		7/00
	7/02		7/02
// A 6 1 K	7/043		7/043
			J
			W
			P
審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)			

(21) 出願番号	特願平11-277299	(71) 出願人	597008762 兵頭 祥二 東京都町田市南大谷13/0-11
(22) 出願日	平成11年8月24日 (1999.8.24)	(72) 発明者	兵頭 祥二 東京都町田市南大谷13/0-11
		Fターム (参考)	4C083 AB232 AB242 AB432 AC022 AC102 AC242 AC352 AC442 AC482 AD011 AD072 AD092 AD152 AD262 AD532 AD662 CC11 CC28 DD17 DD23 EE06 EE07

(54) 【発明の名称】 超極細繊維を配合した化粧料

(57) 【要約】

〔課題〕 女性の永遠の夢の一つは、乳幼児期に見らるベルベット調の質感を持った自然な艶をした顔色の再現であるが、従来の顔用化粧品で顔に艶を出したい場合には、どうしても経時で二次元的な深みのない油ぎった艶になつてしまつたり、又、女性の生活環境の変化により、指先を使う仕事（情報機器など）の急増にともなつて、爪に塗布するネイルエナメルなどのエツジが工作中に剥がれて、お洒落のつमりの指先を人前に出せなくなるなど、早急な改善が望まれていた。

〔解決手段〕 従来使用されていた極細繊維（0.5デニール以上で長さ0.3mm以上）とはまったく次元の異なる超極細合成繊維（0.05デニール程度）の極短片（50μm以下）を化粧料に配合することで、肌上では、繊維末が毛羽立つて光を乱反射してベルベット調の立体感のある艶が得られ、又、ネイルエナメルの塗膜強度は、皮膜形成高分子同士をミクロに繋ぎ合わせ、塗膜物性をより強固なものにする。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 直径約2 μ mの超極細合成繊維を、5～50 μ mの長さに切断して0.5～25.0重量%配合することを特徴とする化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】【発明の属する技術分野】本発明は、超極細の合成繊維を短かく切断した繊維末を、化粧料へ配合することによって、肌に自然な光沢を与えたり、塗布した皮膜の強度向上に関する。

【0002】【従来の技術】

(1) 肌に光沢を付与する場合、従来は、光沢に富んだ原料類(鱗片状粉体類、油胞分類、樹脂類など)の配合比率や組合わせをコントロールして対応していたが、これらの原料類配合によつて作り出された光沢は、二次元的で平面的な深みのないレベルのものであった。

(2) 塗膜の強度強化の場合、従来は、皮膜形成高分子に可塑剤を添加して、塗布皮膜の強度調整をしていたが、塗膜を硬くすると脆くなつてしまうなどの背反事象が現れ、品質的には決して満足出来るものではなかつた。

(3) 通常の極細繊維の場合、直径が10～15 μ mと太く、化粧料には、ファイバーとしての特殊な用途しかなかった。肌上では、繊維が太すぎるために、転がつてフィットしないとか、ざらつばさを感じて筋を引くなど、又、塗膜表面では、凹凸や線が現れて平滑な面にならないなどの問題を抱えていた。

【0003】【発明が解決しようとする課題】本発明は、肌に対して、健康的で若々しい、乳幼児の柔らかなて繊細な産毛によつて発現するような、三次元的な自然な艶の、又、塗膜に対して、皮膜形成高分子同士を上手く結合し薄くて丈夫な塗膜の、開発を課題とする。

【0004】【課題を解決するための手段】 本発明は、直径約2 μ mの超極細の合成繊維を、約5～50 μ mの長さに切断し、その繊維末を化粧料に配合することによつて、

(1) 肌上で超極細の繊維末が絡み合つて、薄くて三次元的な不織布構造を形成して、光学的には表面で複雑な

乱反射現象を起こし、ベルベット調の立体的で深みのある自然な艶を作り出す。

(2) 乾燥した塗膜内部で、超極細の繊維末が皮膜形成高分子同士を強力に繋ぎ合わせて、塗膜の物性(硬さ、脆さ、粘り、接着性など)を向上させる。

【0005】本発明に用いる超極細合成繊維は、直径約2 μ mで長さ50 μ m以下のため、今までの極細繊維(直径約10～15 μ mで長さ0.3mm以上)で見られた外観的欠陥(表面の凸凹、筋、よれ、繊維の絡み等)や、官能的欠陥(ざらつき、ぼてつき、転がり、ぼそつき等)のようなマクロ的欠陥は現れない。

【0006】本発明に用いる繊維末の材質は、通常の酸・アルカリ、各種有機溶剤などに対する安全性・安定性、吸入毒性、帯電性、親水性・親油性などを総合し、ポリエステル繊維・アクリル繊維・ポリアミド繊維などが適している。

【0007】更に、これらの繊維の製造時に、0.01～0.05 μ mの超微粒子粉体(二酸化チタン、酸化亜鉛、酸化鉄など)を5～20重量%含有させると、繊維の紫外線遮蔽効果は抜群に向上し、又、着色剤を適量添加すると、繊維は多彩な色に発色して、繊維本来の機能に新しい価値が付加される。

【0008】【発明の実施の形態】

(1) 顔用の化粧料の場合、顔面の若々しくて理想的な艶は、薔薇の花びらやピーチ・スキンの艶で代表されるようなベルベット調の艶である。この艶を肌上で表現するために、顔用化粧料(基礎化粧品、メイクアップ化粧品)に超極細の繊維末を配合すると、肌の表面で繊維末がランダムに三次元的な不織布構造で配列し、光を複雑に乱反射することによつて、乳幼児の産毛で発現する自然な艶を、女性の顔で再現することが出来る。

(2) 塗膜形成タイプの化粧料の場合、皮膜形成高分子を分散・溶解した溶剤中に、超極細の繊維末を添加して均一に分散後、溶剤が揮散して塗膜になるが、その際に、繊維末は高分子同士をミクロに繋ぎ合わせる役を果たし、塗膜の物性を強固なものにすることが出来る。

【0009】

【実施例-1】

粉末固形白粉の場合(メイクアップ用プレスパウダー)

原 料 名	配合量(重量%)
タルク	28.0
セリサイト	20.0
マイカ	16.0
ジンク・ミリスレート	7.0
二酸化チタン(ルチル)	5.0
*超極細ポリエステル繊維末	10.0
べんがら	0.90
黄酸化鉄	2.07
黒酸化鉄	0.03
スクワラン	4.0

シリコン・オイル	5.5
ニツコールS I - 10	0.80
香料	0.38
エチルパラベン	0.30
ビタミンE-アセテート	0.02
合計	100.00

【0010】

[実施例-2]

粉白粉の場合 (メイクアップ仕上げ用ルースパウダー)

原 料 名	配合量 (重量%)
セリサイト	45.0
マイカ	31.2
*超極細ポリアミド繊維末	20.0
スクワラン	3.0
ニツコールS I - 10	0.3
ビタミンE-アセテート	0.05
香料	0.45
合計	100.00

【0011】

[実施例-3]

塗膜化粧料の場合 (美爪用ネールエナメル)

原 料 名	配合料 (重量%)
*超極細アクリル繊維末	3.0
酢酸n-ブチル	15.0
酢酸エチル	10.0
n-ブタノール	2.0
ニトロセルローズHIG-1/2	4.0
ニトロセルローズHIG-1/4	8.0
トルエンスルホンアミド樹脂	15.0
ベントングル	20.0
シトロフレツクスA-4	5.0
カンファー	1.95
ビタミンE-アセテート	0.03
シーオーグレチノール	0.02
調合混溶色材	16.0
合計	100.00

【0012】[発明の効果] 本発明の超極細合成繊維末を配合した化粧料は、肌表面では、ミクロにみると微細繊維末がランダムに配列して、毛羽立ったような構造となつて、光に対して乱反射を起こして、見る角度によつてビロードやベルベット調の立体的で深みのある質感の自然な艶を肌に与え、若々しく健康的な顔色にする。(官能評価)。一方、皮膜形成高分子による塗膜の内面では、微細繊維末が高分子間で分子同士をより細かくミ

クロに繋ぎ合わせる役目を果たして、塗膜物性をより強固なものへ改善する。(官能評価、物理的評価)。これらの効果は、極細繊維末(径10~15 μ m以上で長さ0.3mm以上)に較べて超極細繊維末の、径約2 μ mで長さ50 μ m以下と云う桁違いに微細な素材であるために出現する物性によるもので、今までの繊維末で見られたような外観的及び官能的な欠陥を、一挙に解消することが可能となつた。